

令和元年度（2019年度）第2回 函館市地域支え合い推進協議体会議 会議概要

■ 日 時

令和元年（2019年）12月23日（月） 18時30分～20時00分

■ 場 所

市役所 8階第2会議室

■ 議 事

報告

- ・令和元年度くらしのサポーター養成事業の進捗について

議事

- ・助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて
（整理された課題とその対応）

その他

■ 配布資料

- ・会議次第
- ・資料1 令和元年度くらしのサポーター養成事業の進捗について
- ・資料2 整理された課題とその対応
- ・資料2 参考資料（丸藤委員から当日配布）

■ 出席委員（11名）

阿知波委員，池田委員，川口委員，木村委員，酒井委員，佐々木委員，所委員，能川委員，林（珠）委員，林（優）委員，丸藤委員

■ 傍 聴（8名）

■ 報道機関（1名）

■ 市職員（事務局）

地域包括ケア推進課 小棚木課長，二木主査，古口主任技師，田畑主任主事，関主任主事
高齢福祉課 川島主任，小澤主事

■ 会議要旨

池田会長

それでは報告「令和元年度くらしのサポーター養成事業の進捗について」市から説明願いたい。

関主事

(資料1「令和元年度くらしサポーター養成事業の進捗について」に基づき説明)

池田会長

阿知波委員，社協ではくらしのサポーターが地域で活動をするために，どのようなところに，どのようにアプローチする予定か。

阿知波委員

市とも調整しながら，まずは老人クラブ連合会や町会連合会と話をしていこうということになっている。具体的な進め方については調整中。老人クラブ連合会や町会連合会に対し，くらしのサポーターの取組を理解していただけるよう説明を行っていきたいと思っている。くらしのサポーターに関しては「地域における住民主体の助け合い活動の中心となるキーパーソンおよび担い手」と市で定義してくれたので，カリキュラムも居場所作りに関する内容をより多く盛り込むなど段々と形が整ってきている。このようなくらしのサポーターの取組について，老人クラブ連合会や町会連合会に話していききたい。両団体とも規模が大きいので，全体に行き届くまでは，時間がかかると思っている。

池田会長

林（珠）委員，包括支援センターに活動を希望するくらしのサポーターの名簿の提供があったが，第2層協議体へのくらしのサポーターの参加は増えそうか。

林（珠）委員

名簿を頂いたので，第2層協議体へくらしのサポーターに参加してほしい場合は，直接連絡して参加をお願いすることとなっている。

池田会長

それでは，補足説明をいただいたので，くらしのサポーターが地域で活動をするために，どのようなところにどのようにアプローチをしたら良いか，ご意見いただきたい。能川委員どうか。

能川委員

ボランティア連絡協議会には約70団体が加盟しているが，各団体は自分の組織運営に集中している。社協からくらしのサポーター養成研修の周知依頼があった際，各団体へ案内しているが，あまり参加されていないのではないかと思う。私の方でも周知に関し，社協と相談しなければならないと思っていた。

池田会長

阿知波委員，社協はどのようにアプローチしているのか。

阿知波委員

4年やってきて、色々な広報手段で周知している。新たな団体へも声をかけていかなければならないとは思っていた。

林（珠）委員

阿知波委員から話があったが、町会連合会や老人クラブ連合会にうちのサポーターの取組を説明し、理解してもらうには時間がかかると思う。また、町会に説明する際、誤解を与えるような説明をしてしまうと、「それでは受け入れられない」ということになってしまうので注意しなければならない。その上でどのような団体にアプローチしていけばよいかということだが、現在社協で把握しているボランティア団体の中で、人手が足りないという団体があれば、そこのマッチングは可能かもしれない。また、地域食堂など地域で色々活躍している人が多くいるので、これらの隠れた地域資源にアプローチしていくのは1つの手かなと思う。

川口委員

うちのサポーター養成研修にうちの町会から何名か参加し、雰囲気は出てきている。町会連合会の状況は皆さんご承知かもしれないが、町会の加入率が減ってきており、弱体化してきている。その立て直しをしながら、うちのサポーターの取組についても広げていきたいと考えている。

酒井副会長

うちのサポーターをせっかく養成しているので、修了者が全員登録してくれるような工夫が必要ではないかと思う。せっかく修了しても登録しない人がいるのはもったいないと思う。

池田会長

先ほど林（珠）委員から新しい地域資源の開拓の話が出たがいかがか。

所委員

ボランティア団体に加入せず活動している方々を吸い上げるため、うちのサポーターの取組内容について、地域資源の実施主体にPRすることが必要であると思う。PR方法については、目に触れる機会が多い新聞は有効であると思う。図書館や市役所には多くのチラシが置いてあるが、中々見られていないのではないか。

木村委員

うちのサポーターの取組について、広く周知していかななくてはならない。

池田会長

うちのサポーターの取組をきちんと知ってもらうには、時間がかかる。

阿知波委員

4年間で養成はある程度できてきたので、これからはうちのサポーターの活動についての周知にも力を入れていきたい。

池田会長

他に委員から何かあるか。

(特に無し)

特に無いようなので、次に進みたい。それでは議事「助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて（整理された課題とその対応）」市から説明願いたい。

二木主査

(資料2 「整理された課題とその対応」に基づき説明)

おやじ世代の地域活動を探るため、実際の活動者へインタビューを行うこととなっているので、具体的な内容等については丸藤委員に説明をお願いしたい。

丸藤委員

(資料2 「参考資料(2019いきがい・助け合いサミット in 大阪 報告書抜粋)」に基づき説明)

川口委員、地域活動を始めて長いと思うが、地域活動を始めたきっかけはどのようなことがあったか。

川口委員

地域を知る・歴史を知る、学ぶことがきっかけであった。知る事・学ぶことが地域活性化の基本ではないかと思っている。住民の質を高めなければ良い取り組みはできないと思う。

丸藤委員

とりあえず男性陣に聞いていきたいと思う。能川委員はどうか。

能川委員

自分が所属している高齢者の会は60名ほどいて、男女ほぼ同数程度の参加者であるが、参加の動機については、ボランティアをやりたいからという方はいなかったと思う。自分のやってみたいことがあるので、参加したという方が多い。麻雀、カラオケ、囲碁、将棋等サークル活動を目的に加入する。麻雀が一番多く約45名が参加している。新年会も麻雀参加者が中心に企画するので、参加率は高い。麻雀参加者の企画で社会貢献活動が生まれ、年に何回か活動している。阿知波委員には話したことがあるが、ボランティア活動について企業に説明をしてほしい。そうすることで、その企業の退職者のボランティア活動や町会活動への参加に繋がると思う。最近のボランティア団体の活動を見ると、昔に比べて参加する人が少なく、活動内容も先細りしてきていると思う。ボランティア活動している人も高齢となり、退職された人でボランティア活動している人は昔ほどいない。このような状況にあることから、ボランティア活動について企業に説明をしてほしい。また、市役所にはくらしのサポーターの説明を行う出前講座のようなものをやってほしいと思う。かなり話がずれてしまったかもしれず申し訳ないが、私としては、おやじの活動に関する良い案は思い浮かばなかった。

丸藤委員

すでに活動をしている方に話を聞きたくなるが、企業の人に話を聞くと、良いアイデアを教えてくれるかもしれない。阿知波委員どうか。

阿知波委員

インタビュー内容についてだが、おやじ世代に向けた広報のやり方について聞いてみてはどうか。おやじ世代にヒットさせる方法などが聞けるかもしれない。

丸藤委員

どのような広報のやり方がこの世代に届くのか確認してみたい。佐々木委員どうか。

佐々木委員

会員を集めても、内容がないと続かないと思う。長続きしているコツとしては、会員のモチベーション維持だと思うので、モチベーションを保つ仕組みを聞いてみるのが1つではないか。また、会員に対し、認知症の方への対応など、教育を行っているのかも聞いてみてはいかがか。

丸藤委員

池田会長，一委員としてどうか。

池田会長

町会そのものが1つの母体だと思う。趣味など学びの場を沢山作り，その中で町会についても学んでもらう。そうすれば町会が活性化し，社会貢献活動も生まれてくるのではないか。企業の方の参加についても話が出ていたが，企業の方は忙しく，参加は難しいと思う。シニア世代・プラチナ世代へのアプローチが必要である。

林（優）委員

シルバー人材センターに登録している方は，趣味を中心に動いている方が多い。趣味以外の残っている時間で仕事をしている。以前は1日の労働を希望する方が多かったが，最近は3時間程度で良いなど，働き方が変わってきている。個人的な話にはなるが，犬を飼っており散歩に連れていくが，おやじ世代の方が犬の散歩をしている姿をよく見る。多分時間はあるのではないかと思う。

丸藤委員

もう少し聞いてみたいが，時間も押してきたので，地域で活躍しているおやじ世代の情報に進みたい。皆さんが知っている地域で活躍しているおやじ世代や，こんなところにインタビューに行ったらどうかなど，意見等あるか。

木村委員

器用な人，大工ではないが，お年寄りの家の窓を修理してくれる人や電球を交換してくれる人，雪かきをしてくれる人はいる。

丸藤委員

男性は具体的な役割があると参加してくれやすいかもしれない。具体的な役割や技を持っている人に聞きに行くといいかもしれない。

川口委員

昔は出しゃばってくれる人がいたが，最近は出しゃばることがしにくい世の中になっている。出しゃばってくれた人にはカードに判子を押すなどし，何個か貯まったら市電が何回か無料になる，温泉入浴が何回か無料になるなど，出しゃばりたくなるような面白い仕組みを考えるのも手ではないか。また，前の総務部長は能のシテ（能の主演）だったそう。事前にそのような特技が分かっていたら披露したりするなど，色々活躍の場があったのかもしれない。このような特技を持つ人を発掘する仕組みを考えるのも1つの手だと思う。

丸藤委員

そのような人は沢山いるのだろうか。

川口委員

特技を披露したくても我慢している人は沢山いると思う。

丸藤委員

そのような人をどうやって探し出せばいいか。

川口委員

おだてて、社会的に認知させればいいと思う。

池田会長

おだてるにしても、そのような特技を持っていることが分からなければ、おだてることができない。

丸藤委員

その人の得意な部分の引き出し方も聞いてみたい。時間が無いので、次のおやじ世代への期待に進みたい。そもそも地域活動を深めましょう、社会参加しましょう、社会貢献しましょうと言っても、先ほどのマッチングではないが、おやじ世代がやる気を出しても、どういう場面で具体的に活躍してもらうか提示できないと活躍に至らないと思う。おやじ世代はどのような場面での活躍が期待できるか。

古口技師

先ほど木村委員から話があったが、窓を修理してくれるなど、ちょっとした大工仕事をしてくれる人はいいと思った。

所委員

若い人が個人としてブースを設け、爪をネイルしてほしい人、お化粧品をしてほしい人、占いをしてほしい人を集め、それらのサービスを提供するようなイベントがある。このように1日いっぱいの活動ではないが、私はこのような分野が得意で、この時間なら対応できるというように、個人的にできる活動内容を公の場でPRし、電球を交換してほしい人、草を刈ってほしい人などの要望とマッチングできる仕組みがあれば1つの手かなと思う。

林(珠)委員

本当におやじ世代から担い手を発掘できるのであれば、介護サービスの対象外のサービスの穴埋めとなるようなボランティアサービスを担っていただけると助かる。雪かきや送迎など、いわゆる生活支援のボランティアを担っていただけるとすごく助かる。ただ、そもそもボランティアをやりたいと希望している人ならすんなりマッチングできると思うが、そうではなく何か興味のあることから派生させてマッチングを狙うのであれば、その仕組み作りを検討していかなければならない。趣味的な活動ならやりたいという人が多くいるようだが、そのような人をどうやって地域活動に結び付けていくか、仕掛けを考えなければならない。

丸藤委員

函館では全体的におやじ世代の力が必要となるような大きな困りごとはあるか。私は今年だけでも3・4回浦河町に訪問しているが、浦河町のごみ捨ては少し特殊で、町の所々に設置しているゴミステーションまでゴミを持参しなければならない。ところがこのゴミステーションまでゴミを持参できない人が、段々増えてきているのが町としての大きな課題となっていて、その課題に対する解決策を考えている。函館でおやじ世代が活躍する仕組みを作るにしても、大きな方向性は作らないと難しいと思う。

二木主査

それについては、今回保留にしている2つの大きな課題、雪かき・移動手段の確保があるのでそこかなと思う。おやじ世代の方々が活躍できる仕組みを作ると、この2つの課題について解決につながるかもしれない。

林(珠)委員

そもそも定年退職して家にこもっている人は何に関心があるのだろうか。そのようなところを知らないで引っ張り出すことも難しいのではないか。

能川委員

60代～70代の引きこもりは多くなってきている。私も5～6名の方から相談を受けている。その方たちは趣味も拒否してしまう。そうなってしまうと話の持っていくようがない。

池田会長

男性と女性の違いはあると思う。デイサービスは女性の参加者が多いと思うが、その中に男性は入っていけるのか。

佐々木委員

うちの利用者に限って話をさせてもらおうと、利用者の8割は女性。最近来ている男性の特徴は、せっかくデイサービスに来ているのに、施設内で家にいるようなことをしている方が増えてきた。デイサービスに来て誰かと交流を持つのではなく、血圧を測るなどした後は、自分のお決まりのソファで本を読む、このような過ごし方をする方が多い。どうでしたかと聞くと、ゆっくり本を読めて楽しいと満足感を得られて帰って行く。

丸藤委員

男性同士で声を掛け合うことは無いのか。

佐々木委員

まったくないわけではないが、男性は自分のペースで過ごす方が比較的多いと思われる。もしかすると機能訓練を中心にやっているデイサービスでは、男性同士で声を掛け合うことがあるかもしれない。

林(優)委員

うちの会員も同じで、男性同士の場合、顔見知りの人と現場で会っても、挨拶程度でその場限りである。女性の方だと声を掛け合ってお茶に行ったりする。女性はコミュニケーションを沢山とろうとする。

池田会長

母と娘の関係のようだ。母と娘は良くしゃべるが、父と娘はあまりしゃべらない。

古口技師

そうすると1人で行うことに力を発揮してくれるかもしれない。団体で行おうとする
と入りにくいが、1人で気楽に行えるものであれば、参加しやすいのではないか。

池田会長

せっかくくらしのサポーターを沢山養成してきているので、その方々が、色々な人を
発掘できればいいと思う。くらしのサポーターを活用しないともったいない。

丸藤委員

チームで活動するのが好きな人、1人でコツコツ行うことが好きな人がいるので、
色々なタイプの人色々なことで活躍できる仕組みを考えられればと思う。もう時間にな
ったので、皆さんから本日いただいたご意見等を参考に、インタビューしていきたい。
まずは活躍している方の話を聞いて、それを広げていきたい。

池田会長

全体を通して何かあるか。

(特に無し)

では、これで議事を終了したい。進行を市にお返しする。

二木主査

今回の協議体は、地域包括ケアを中心とした高齢者介護の制度・サービス開発等の調
査とコンサルティングを中心に活動している三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング岩
名部長をオブザーバーとしてお招きし、助け合いに関する最新の情報等を講演いただき、
その後本日の議論を発展させていきたいと思う。

田畑主事

これをもって、函館市地域支え合い推進協議体の今年度第2回目の会議を終了する。